

The TENDAI journal

令和8(2026)年9月1日 火曜日
(毎月1日発行) 1部80円 (消費税込・送料別)

天台ジャーナル

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 原 徳明
〒520-0113大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：t-press@tendai.or.jp



被害を受けた長壽寺本堂(九州西教区提供)

最大震度6強を観測した南区の長壽寺と延壽寺(角本尚雄住職)で大きな被害が出ている。長壽寺では本堂内の厨子や仏具が多数倒れ、壁が剥落しているほか、境内の手水舎の屋根や灯籠が倒壊し、墓石がズレるなどの被害が生じている。31日には、九州西教区内の住職と宗務所職員ら数名が駆けつけ、角本住職の指示のもと本堂内の片付け作業を実施した。また延壽寺でも建物のひび割れや石塔の倒壊が確認されている。なお、その他の県内寺院では石仏や堂内仏像の破損はあるものの、本堂建物の被害はなく、幸い怪我人はなかったという。

天台宗務庁には29日付けで「令和8年熊本地震天台宗災害対策本部」が設置され、本部長に細野舜海宗務総長、副本部長に獅子王圓明延暦寺執行が就任した。「被害寺院をはじめ被災地の情報収集、現地への救援調査団の派遣、救援方法の決定、救援活動の推進、救援募金の依頼」の5項目を重

天台宗は7月28日に発生した令和8年熊本地震で、翌29日に災害対策本部を設置し救援活動を開始した。熊本市南区の長壽寺(角本尚雄住職)で大きな被害が確認されており、管轄する九州西教区の嘉瀬慶文宗務所長らが直後に災害備蓄品を持参し、被災状況などを視察した。天台宗及び九州西教区では義援金の協力を呼びかけている。

令和8年熊本地震で宗内寺院に被害 天台宗と九州西教区で災害対策本部設置



倒壊した手水舎の屋根(九州西教区提供)

点に救援活動を進めることを決めた。30日には全寺院に文書を送付して支援を呼びかけ、31日には熊本県に向けて備蓄用飲料水75箱を発送した。

入りし、教区職員らと支援物資の搬入作業を行い、義援金を贈呈。その他、全国の各教区や寺院からも義援金が寄せられており、支援の輪が広がっている。

地震発生以降、九州西教区では教区内住職や宗務所職員らが交代で被災地入りし、行政や支援団体等に協力して支援物資の搬入や清掃活動などを継続している。9月14日には活動拠点とする佐賀県三養基郡の妙覺院(一番ヶ瀬順

天台宗災害対策本部では、一隅を照らす運動総本部「地球救援事務局」を窓口とする災害義援金の募金を呼びかけている。(6面参照) 寄せられた義援金や支援金は被災地の各行政や公的支援機関などを通じて送られる。

令和8年8月千葉豪雨により、亡くなられた方のご冥福をお祈りし、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
天台宗 一隅を照らす運動総本部

極微

地震や水害などの自然災害が相次ぎ、厳しい暑さや台風への警戒が続く今夏。「天災は忘れたころ

にやってくる」という言葉通り、私たちは常に危険と隣り合わせで暮らしている。命を守るためには、最新の気象情報だけでなく、先人たちが語り継いできた言葉に耳を傾けることも不可欠だ▼東日本大震災で広く知られるようになった「津波でんでんこ」は、津波が来たら肉親にも構わず一人ひとりが高台へ逃げよという教えである。全員が助かるための知恵を伝えている。水害においても「雨の夜の川は見に行くな」「山鳴りがしたら裏山から離れる」といった戒めは有名で、一度は耳にしたことがあるはずだ▼だが、現代の都市型水害で特に警戒すべきは「アンダーパス」だろう。車という閉ざされた空間にいる安心感も手伝うのか、「この程度なら大丈夫だろう」という過信から進入してしまいがちだ。お盆休みを襲った千葉県での豪雨でも、多くの車が動けなくなった映像が報じられた。専門家は「引き返す決断が生死を分ける」と警鐘を鳴らす。もし進入して動けなくなった場合は、速やかにエンジン止め、早めに窓を開けるか、脱出用ハンマーを使って車外へ退避することを忘れないでほしい▼自然は恵みをもたらす一方で、時には容赦なく牙をむく。猛暑や台風などが猛威を振るうことを常に念頭におき、命を守る行動を徹底したい。